

第40回東北建築賞作品賞選考報告

選考委員長 増田 聡

1. 応募作品

・小規模建築物部門	5 作品
・一般建築物部門	24 作品
計	29 作品

2. 選考経過

- (1) 事前打ち合わせ会議 2019年9月28日(土) 17:00 ~ 18:00
於 日本建築学会東北支部会議室

選考委員長の選出、東北建築賞作品賞募集要項、選考委員会規則などを確認した上で、応募作品の数とその内訳を確認した。東北建築作品発表会の運営方法及び東北建築賞作品賞の選考基準などについて事前打ち合わせを行った。

- (2) 東北建築作品発表会 2019年10月5日(土) 10:00 ~ 17:00
於 せんだいメディアテーク7階スタジオシアター

第30回東北建築作品発表会において応募29作品の発表が行われた。限られた発表時間の中でそれぞれのコンセプトが紹介され、発表会は全体として滞りなく進められ終了した。時間厳守にご協力いただいた発表者、諸氏に敬意を表したい。

- (3) 第1次審査会 2019年10月5日(土) 17:15 ~ 18:15
於 せんだいメディアテーク2階会議室

東北建築作品発表会終了後、会場を移し、現地審査を行う必要のある作品を選定することを目的として、第1次審査を行った。小規模建築物部門、一般建築物部門、その他の建築物部門を別々に選考せず、まとめて投票することになった。全作品の中から一人5票以上8票以内で投票することとなり、各委員の投票および発表内容を総合的に考慮した結果、小規模建築物部門2作品、一般建築物部門11作品、合計13作品を第1次審査通過とした。

次に、現地審査は1作品につき2名以上の選考委員がこれに当たることを確認し、選定された13作品について現地審査の分担を決め、現地において確認すべき点を検討し、作品管理者との連絡を含めた現地審査の日程調整は事務局を通して行う事とした。

なお、1次審査の落選者へは200字程度の講評を選考委員分担で作成し、選考委員会として送付することを確認した。

(4) 現地審査

現地審査については11月と12月に選考委員で分担して現地審査が行われた。

- (5) 第2次審査 2020年2月1日(土) 13:00~17:00
於 日本建築学会東北支部会議室

まず、選考委員長より全体の進め方と評価ポイントの確認があった。その後、1作品ずつ現地審査担当委員からパワーポイント等により報告を受けた後、現地を確認した担当委員の印象・評価等を確認した。次に、作品についての質疑、審査委員の評価ポイント等についての討議を全審査員で進めた上で、投票および討議の結果、一般建築物部門から作品賞5作品と特別賞1作品、小規模建築物部門から特別賞1作品の計7作品を選定する事に決まった。

(6) 総評

今回の応募作品の多くが公共建築で、とりわけ全国的にも建て替え期を迎えている庁舎建築が多かったものの、投票結果を一義的な選択基準として判断を行った結果、庁舎建築では傑出した作品がなかったため、作品賞として市民ホール、交流センター、学校、こども園、旧校舎リノベーションによる学習交流センターの5作品が、特別賞として旧旅館リノベーションによる個人住宅と集會施設(交流館)が選出されました。ここ数年の流れと変わらず、歴史的建物のリノベーションによる再生・転用の事例が含

まれています。また、復旧・復興事業として東日本大震災の地震・津波・原子力災害の被災地に建てられた施設も多く、コミュニティ再生や生活再建に果たす建築の役割と姿を改めて提案している作品として、この時期の東北建築賞の意義を再考する選考作業となりました。

(7) 選考結果

一般建築物部門

◆釜石市民ホール

【施主】釜石市

【所在地】岩手県釜石市大町

【設計監理】aat+ヨコミゾマコト建築設計事務所

構造設計：Arup Japan

設備設計：Arup Japan

設計協力 AT/LA

舞台計画 空間創造研究所

建築音響 永田音響設計

防災計画 明野設備研究所

積算 二葉積算

照明計画 岡安泉照明設計事務所

家具デザイン 藤森泰司アトリエ

サイン計画 ダイアグラム+ノムラプロダクツ

アルゴリズムミックデザイン アンズスタジオ

テキスタイル 安東陽子デザイン

【施工】戸田建設・山崎建設JV

一般建築物部門

◆旧長井小学校第一校舎

【施主】長井市

【所在地】山形県長井市まもの上

【設計監理】建築：株式会社鈴木建築設計事務所

(建築協力：YAMMY DESIGN 一級建築士事務所)

構造：株式会社鈴木建築設計事務所

設備：株式会社建築設備設計研究所

【施工】建築：那須建設株式会社

電気設備：大竹電気工事株式会社

機械設備：飯鉢工業株式会社

一般建築物部門

◆九品寺こども園

【施主】学校法人明照学園 九品寺こども園

【所在地】福島県いわき市平大字九品寺町 3-2

【設計監理】建築：株式会社アトリエ9 建築研究所 代表取締役 呉屋彦四郎

担当 土屋洋夢 井村武蔵 大場英明

株式会社ジャクエツ 代表取締役 徳本達郎

構造：雄設計室 代表 笠原雄次

設備：株式会社環境プランナー 代表取締役 福永俊春

家具デザイン：有限会社イガラシデザインスタジオ 代表者 五十嵐久枝

サインデザイン：株式会社 粟辻デザイン 代表者 粟辻美早

【施 工】 渡辺・山木特定建設工事共同企業体 代表者 渡辺大輔

一般建築物部門

◆須賀川市民交流センター tette

【施 主】 須賀川市

【所 在 地】 福島県須賀川市中町 4-1

【設計監理】 建築：石本建築事務所＋畝森泰行建築設計事務所
構造：石本建築事務所（構造協力：オーク構造設計）
設備：石本建築事務所
家具：畝森泰行建築設計事務所
図書館コンサルタント：アカデミック・リソース・ガイド
市民協働コンサルタント：ステイルウォーター
サイン：日本デザインセンター 色部デザイン研究所
展示：丹青社
ランドスケープ：稲田ランドスケープデザイン事務所
防災計画：安宅防災設計
音響計画：唐澤誠建築音響設計事務所
積算：柴田積算
建築アドバイザー：安田 幸一

【施 工】 建築：三井住友建設・三柏工業共同企業体
空調・衛生：新日本空調 / 電気：ユアテック

一般建築物部門

◆東松島市立宮野森小学校

【施 主】 東松島市

【所 在 地】 宮城県東松島市野蒜ヶ丘二丁目 1 番地 1

【設計監理】 建築：盛総合設計+ シーラカンス K&H
構造：佐藤淳構造設計事務所
設備：盛総合設計・仙台総合設備計画
空調： YMO

【施 工】 建築：住友林業
機械：山下設備工業株式会社
電気：株式会社ユアテック

「特別賞」 2 作品

小規模建築物部門

◆湯守の旅籠

【施 主】 菊池 玄輝

【所 在 地】 山形県上山市新丁

【設計監理】 井上貴詞建築設計事務所

【施 工】 山形建設株式会社

一般建築物部門

◆みんなの交流館 ならはCANvas

【施 主】福島県檜葉町

【所 在 地】福島県双葉郡檜葉町大字北田字中満 260 番地

【設計監理】都市建築設計集団/UAPP

【ワークショップコーディネータ】立命館大学産業社会学部教授 乾 亨

【施 工】諸橋建設工業

(8) 講評

作品賞

【釜石市民センター】

被災した市民会館の復旧事業として計画されたこの施設は、敷地南側に立地する商業施設や広場とともに、釜石市の新たな復興拠点として位置づけられています。先行整備された釜石情報交流センターと施設をつなぐ大屋根が掛けられた広場は、小ホールとホワイエが同レベルに設定されている、創造活動の一体的な利用を促すとともに、賑わいを創出する拠点。特に可動壁により全面展開する小ホールは、多様な使い方をユーザーが考えるきっかけを促しています。大ホールと連携してレイアウト変更も可能となっており、大スパンを確保した構造計画とともに、多機能を具体化するデザインとなっています。1階レベルにおいてバックヤードも含め比較的裏をつくらないデザインが工夫され、将来的な街に対する考え方も提示されています。運営体制との連携が設計プロセスにおいても試みられており、ハード・ソフト両面における復興まちづくりの公共施設のあり方として、東北建築賞作品賞として評価に値します。

【旧長井小学校第一校舎】

本作品は、昭和8年に建てられたのち、現在は小学校としての役割を終えて、長井市の「学び」と「交流」の拠点として生まれ変わった木造2階建て校舎のリノベーションです。この校舎は老朽化が進んだのちも、平成元年に大きな補修が施されることで大事に使い続けられて、平成21年には国登録有形文化財となりました。それゆえ、本作品でもかつての教室には、現在の用途にしたがった改修が施されていますが、米松の正目による床張りの廊下や、左右対称形の堂々たる中央階段、関係者からの聞き取り調査に基づいた赤みのスレート外壁などからは、かつての校舎としての記憶が想起されるように配慮されています。とりわけ特筆すべき点は、巨大な木造建築に免震レトロフィット工法を用いたことで、全国的にも類例がないにもかかわらず、東北地方で実現できたことには大いに価値があります。本作品は、地元市民の旧校舎に対する並々ならぬ熱意と誇りを、地元の設計者と施工者がくみ取り実現したものと、今後も利用者から末永く愛されることが期待され、東北建築賞にふさわしいと評価されました。

【九品寺こども園】

いわき市における九品寺こども園は、回遊性とポーラスに設けられた中庭により、一体的なつながりと豊かなこども環境が実現されています。「ことば」「からだ」「異文化」をテーマとした教育的なコンセプトに対して、スロープでつながれている回廊、遊戯室の周辺を取り囲む土間、敷地南側の通りと園庭を介する中庭など様々な場を設けることで、広がりのある空間を有しています。全体的に1階の階高を低くすることで、こどもの環境心理に適応させるとともに、上下階のつながりが無理のない計画になっています。また、アルコーブとなっているデンや収納の考え方など、こどもの発育と自由を担保する細やかな環境づくりへも配慮されています。更に周辺敷地の関係においては、敷地南側の通りに対してメッシュや遊具などで活動を見せつつ緩やかに分離する計画となっています。以上より都市における豊かなこどもの環境として東北建築賞作品賞として評価に値します。

【須賀川市民交流センター tette】

須賀川市に東日本大震災の復興事業として計画された図書館機能や生涯学習機能を併せ持つ複合施設であり、想定よりもはるかに多い入館者数が地域における施設の利用価値を裏付けています。計画プロセスについては、ワークショップなどを積み重ね、運営スタッフとの議論を踏まえ、それらのコラボレーションからハード・ソフト両面からの新たな使い方の形が提示されています。二つの通りを横断する土間を展開する都市的な提案と図書館、公民館、子育て支援施設の枠を超えて、情報と活動が融合する

新しい公共空間として様々なスケールへの工夫と密度の高いデザインを具現化しています。また、施設の9つのテーマ語句に関連して、施設全体に図書を配置し、それに対応した什器類も計画するなど、コトを重視してデザインされている点などが高く評価され、東北建築賞作品賞として相応しいと評価されました。

【東松島市立宮野森小学校】

震災による高台移転地の中核として、旧野蒜小と旧宮戸小の合併により設立されました。造成による切土部に平屋を主体とした木造校舎群を配置し、隣接する「森のがっこう」を借景とする一方、盛土部を校庭としています。前面道路側に体育館、特別教室棟、図書室等を並べ、送迎バスの待合にも用いられる図書室は地域にも開放されます。奥に展開する教室棟は、間隔を置いて主屋に貫入されたいくつものハウスボックス(7.2m×9.0m)が特徴的で、教室部の全面窓やハイサイドライトとともに周囲の景観を取りこみ、明るい中廊下と多様な「場所」を創出しています。これらを包む架構はスギ製材を用い、斜交格子トラス構造で掛け渡した体育館はとくに伸びやかで心地よいです。また特別教室棟は2階建てとしながら体育館とともに地域への開放にも対応しています。庇のある主屋と庇のないボックスの意匠の異質感、全体的に黒を基調としたやや重い外観、校庭の疎遠感、オール電化の設備採用が最適か否か、といった指摘もなされましたが、経験値に裏打ちされた設計の秀逸さは、東北建築賞に値すると評価されました。

特別賞

【湯守の旅籠】

上山温泉街に、内装を凝らした座敷が連なる旅籠や座敷蔵など、約150年前に建てられた元旅籠を住宅にリノベーションした作品です。個人住宅であり、限られた予算のなかでの最大限の効果をうむ再生の工夫に特徴です。そのひとつは減築という解決策であり、後世の増築部などを大胆に解体し、自家菜園や明るい芝生へ転換しています。また半透明のツインポリカを2階床に挿入し、1階に明るい居室を実現する等、伝統的町家にはない新しい空間表現も実現されています。既存建物の事前調査や片づけなどの多くを施主はもとより、友人知人や大学生などの参画で進められた点も特徴であり、こうして培われた連携にもとづき、座敷蔵等を展示空間として活用するなどの試みも行われています。上山温泉街はこうした古い建物が集積する一方、空き家の進行などの課題も抱えています。本建物の再生設計や保存活用が、こうした地域課題の解決を促進する波及効果も期待され、特別賞としてふさわしいと評価されました。

【みんなの交流館 ならは CANvas】

福島第一原発の事故により全町民の避難を余儀なくされた檜葉町。除染が完了し、平成27年9月に避難指示が解除され、新たなコンパクトタウンが形成されました。その中核となる商業・交流ゾーンに建設された「みんなの交流館・ならは CANvas」は、町職員・NPO・住民・設計者らがワークショップを重ねた集会施設です。壁をつくらない、地域材の活用、といったコンセプトのもと、木材で組んだ大屋根を鉄骨の柱で支持する構造としています。屋根架構は一般流通材を井桁状に組み上げ、コストを抑えつつ大スパンや大きな庇を実現しています。正方形平面の四周は、巨大木製サッシュが取り付けられ、全開放できます。野地板のやや荒いテクスチャ、所々の古材使用のキッチュさはありませんが、それらを補ってあまりある、1階ホールの吹き抜けた伸びやかさが印象的であり、光、空調、冷暖房と、設計の苦勞が偲べれます。社寺を思わせる、おおらかで懐かしい現代の「がらんどろ」は、災害フロンティアで手を携える多様な人々を優しく包み込むことに成功しており、東北建築賞特別賞に相応しいと評価されました。

第40回東北建築賞作品賞選考委員会

選考委員長 ・増田 聡 東北大学大学院経済学研究科地域計画研究室
・前田 匡樹 東北大学大学院都市・建築学専攻
・最知 正芳 東北工業大学工学部建築学科
・石山 智 秋田県立大学システム科学技術学部建築環境システム学科
・坂口 大洋 仙台高等専門学校建築デザイン学科
・中村 琢巳 東北工業大学工学部建築学科

- ・安部 信行 八戸工業大学感性デザイン学部 創生デザイン学科
- ・大沼 正寛 東北工業大学ライフデザイン学部 安全安心生活デザイン学科
- ・六本木久志 建築舎・アトリエR
- ・新沼 義雄 新沼義雄建築設計事務所
- ・飛ヶ谷潤一郎 東北大学大学院都市・建築学専攻

以上